

## カボチャ栽培における病害虫の防除対策

県内における半促成カボチャ栽培には、ハウスを利用した栽培、2.7m幅または1.8m幅のトンネルで被覆する早熟栽培などがあり、早い作型では5月中～下旬頃より順次に生産物が出荷されていきます。

これらの栽培では、生育の初～中期をビニール被覆内で栽培するため、茎葉病害虫の発生は多くありませんが、被覆を開放する頃より、うどんこ病やべと病、疫病などの病害や、アブラムシ類、コナジラミ類、ウリハムシなど害虫類の発生が増加してきます。これら病害虫の発生は、概して降雨日が多くて多湿条件が続けば疫病やべと病などが、晴天が続くとうどんこ病やアブラムシ類、コナジラミ類などが多く発生する傾向があります。

これらのうち、疫病は多発生してからでは薬剤防除の効果が劣りますし、果実に被害が発生すると直接の大きな減収になりますので、予防または発病初期の薬剤散布が必要になります。また、うどんこ病やべと病も多発生してからでは薬剤の防除効果が劣りますので、発病初期からの防除が重要です。

良質なカボチャの安定生産を図るため、適正な栽培管理とともに、病害虫の早期発見、早期防除に努めてください。

### 【防除対策のポイント】

- 適切な整枝に努め、下葉や葉の込み合っているところの葉裏などを丁寧に観察して、病害虫の早期発見に努めます。
- 被覆を開放したら、予防散布を検討しましょう。また、病害虫の発生を確認したら、必要に応じて的確な防除を行います。  
薬剤散布は十分量の薬液で、葉裏や下葉、株元にもよくかかるように行うことが重要です。なお、収穫前日数に注意して、薬剤を選択してください。
- 降雨が続くようなときは、圃場の排水を促す溝などを作成し、浸冠水や停滞水を回避してください。
- 果実は直接土に接しないように、着果後20日目頃から順次に敷物などを行います。
- 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、同一分類（コード）剤の連続散布は避けてください。

表1 カボチャ うどんこ病の主な防除薬剤 (令和4年4月11日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
モレスタン水和剤	2,000~4,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	M10
ベルコート水和剤	1,000~2,000倍	収穫7日前まで / 4回以内	M7
フルピカフロアブル	2,000~3,000倍	収穫前日まで / 4回以内	9
ダコニール1000 ※	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	M5
トリフミン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで / 5回以内	3
シグナムWDG	1,500~2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	7と11
イオウフロアブル	500倍	— / —	M2

注) 各表の分類欄には、FRACまたはIRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。また、薬剤名の※印にはいずれも有効成分TPNが含まれていますので、総使用回数に注意してください。

表2 カボチャ 疫病、べと病の主な防除薬剤 (令和4年4月11日現在)

対象病害		薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
疫病	べと病				
○	○	フォリオゴールド ※	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4とM5
○	○	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	21
○	○	プロポーズ顆粒水和剤 ※	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	40とM5
○	○	アリエッティ水和剤	400~800倍	収穫前日まで / 3回以内	P7
○	○	ペンコゼブ(ジマンダイセン)水和剤	600倍	収穫21日前まで / 2回以内	M3
	○	ダコニール1000 ※	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	M5

表3 カボチャ アブラムシ類、コナジラミ類、ウリハムシの主な防除薬剤 (令和4年4月11日現在)

対象害虫			薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
アブラムシ類	コナジラミ類	ウリハムシ				
○		○	モスピラン顆粒水溶剤	2,000~4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	4A
○	○		モベントフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	23
○	○		コルト顆粒水和剤	4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	9B
	○	○	トレボン乳剤	1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	3A
	○		サンマイルフロアブル	1,000~1,500倍	収穫3日前まで / 2回以内	21A

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。